

官令

○大政官第二十六號  
明治十年十二月第八十八號布告ニ依リ十八年ニ於テ開設スル第三回内閣勸業博覽會ハ二十二年ニ延期ス  
右布達候事  
明治十六年七月三十一日  
大政大臣三條實美  
農商務卿西郷從道

○大政官第二十七號  
明治十六年四月一日ヨリ六月二十日迄東京上野公園ニ於テ勸業博覽會ヲ開設ス  
但本文品種ハ左ノ制限ニ依リ該會規則ハ退テ布達ス  
一 蘭  
一 蘇  
一 暹羅  
一 緬甸  
一 暹羅及比羅木綿絲(限ル)  
一 暹羅(絹木綿麻毛ノ織物及ビ各種ノ交織物ニ限ル)  
一 蘭(飲食器ニ限ル)

○大政大臣三條實美  
農商務卿西郷從道  
明治十六年七月三十一日

時事新報

時評

人誰カ其生地ヲ愛シザラン人誰カ其郷里ヲ慕ハザラン之ヲ愛シ之ヲ慕フ一所謂人情ノ又也ヨリ左右ノ得ベキモノニアラザルナリ而シテ此性情漸ク進メテ其郷里其縣其府ニ及ボテ遂ニ其一國ヲ念フノ念即チ所謂愛國心ナル者ヲ生スルニ至ルモノナレバ墳墓ノ地ヲ愛慕スルノ土著精神ハ實ニ國家存立ノ基礎ト云フベキモノニシテ人民タルモノハ一日アリテ之ヲ忘却スベカラザルナリ然レハ其心常ニ故國ヲ思フノ切ナルヨリ其身亦ク唯區々タル一小域内ニ止マリテ廣ク社會ニ縱横行スルノ勇ナク空シク一郷ノ小天地ニ俯仰局促スルガ如キアラバ當道ニ其人一個ノ不利ナルノミナラズ社會交通ノ爲メ即チ文明ノ爲メ其進歩ヲ妨グル實ニ鮮少ニアラザルナリ郷里ヲ愛慕スルノ精神ハ我輩ニ於テ稱賞スルニ雖ヒ壯年有爲ノ男子ニシテ徒ラニ父母ノ膝下ニ棲居シ洋々タル社會ノ大波ニ遊泳スルノ勇ナキガ如キハ我輩ノ頗ル同意ヲ表スル能ハザル所ナリ我輩ハ我邦人ノ勉メテ此勇ヲ養成センコトヲ希望スルモノナリ  
交通即チ文明ナリト天下ノ定論ニシテ文明ノ人カラシムモノハ勉メテ交通ノ利器ヲ利用セザルベカラズトハ我輩ノ飽シマデ主唱スル所ナリ而シテ此利器ヲ利用スルハ必ズモ郵便電信等文字書簡ノ往復ニノミ限ルムアラズ其亦亦東西ニ奔走シ南北ニ馳驅リテ遠ク相往來交通スルニ非レバ真ニ文明ノ利器ヲ利用シタルモノト云フベカラザルナリ今我輩我輩ノ意欲ヲ示シテ我輩等シク我輩ノ往來亦不足ナリト雖ヒ既シテコレヲ云ヘバ國內交通ノ便利ナリ又當日ノ此コトアラズ行クニ兩車アリ則チニ陸軍アリ海軍ノ旅行ニ便シク更ニ便利ナルモノガ如クノ内海ノ諸島大抵日輪船日輪往來セザルナリ斯ナルモノ有

横ニ連レタル今日ナレバ各地諸方ノ人々ハ勉メテ其郷里ニノミ土著セズ縱横行ノ習慣ヲ養ハザルベカラズ斯クテコソ眞ニ文明ノ人タルニ愧ザル者ト云フベキナレバ今日我邦人ノ勵止ヲ見ルニ尙ホ封建時代群雄割據シ封土相分カル、時ノ如ク兎角ニ郷里ヲ去テ他域ニ旅行スルヲ以テ甚ダ容易ナラザルコト思考シ居ルガ如ク例ヘバ書生ガ笈ヲ負フテ東京ニ遊學スルモ其心中常ニ東京ヲ以テ頗ル遠隔ノ土地ナリト思ヒ涙ヲ拭テ父母ニ告別スレバ父母モ亦タ其子ノ旅行ヲ見テ恰カモ死地ニ赴ムカシムルノ思ハナシ殆ンド再會モ覺東ナカラント踏ラメ居ルモノ沿々皆ナリ然リ或ハ人ノ他所ニ旅行スルモノアルキハ其友人知己相謀ツテ爲メニ送別ノ宴會ヲ張リ以テ饒饒ノ意ヲ表スルコトアリ是レ固ヨリ朋友親愛ノ厚情ニ出タルモノニシテ甚ダ嘉ニスベシト雖モ今日ハ是レ殆ンド四通五達ノ世界ニシテ派船一蹴忽チ其行カント欲スル所コト行クテ得ベキノ時節ナリ去レバ一タビ其地ヲ去テ他所ニ旅行スルコトアルモ互ヒニ相遇フコト易キ又昔日ノ比コトアラズ日本國內兩端ノ土地ニ相住スルモ尙且旬日ヲ費サズテ互ニ隣ヲ接シ談話スルヲ得ベシ況ンヤ一山一水ヲ隔ツルノ近地方ヲ決シテ相別カル、ト云フ程ノ大造ナル事コトハアラザルナリ親子ノ情ノ切ナル朋友ノ交ノ厚キ固ヨリ顯然スル所ナリト雖ヒ此情ノタメニ交ノタメニ世人ノ腦裏ニ旅行ヲ恐怖嫌忌スルノ妄念ヲ生セシメ冥々ノ間日本文明ノ進路ニ大障礙ヲ置クノ實アルガ如キハ我輩ガ常ニ慨歎スル所ナリ社會ハ一般知識ノ度ヲ平等ニ都鄙ノ別ヲ以テ人智ノ發達ニ高低ノ差アラシムベカラズ仮令ヒ全ク差ナキニ至ラシメ得ザルモ漸ク此点ニ達セシムルノ方便ヲ取ラザルベカラス然ルニ今日我國都鄙ノ有様ヲ對比スルニ其文化發達ノ度殆ント同日ヲ以テ論スベカラザルモノアリ是レ其間ノ交通尙ホ甚ダ盛ンナラザルニ依ルモノナルガ故ニ今日ノ急務ハ多々益往來ヲ頻繁ニ營業ノ發達主義ヲ廣ゲテ大ニ天下ニ飛揚スルノ勇氣ヲ養ヒ身輕ニ旅シテ縱横遠近ニ出遊スルノ習慣ヲ成サシムルベカラザル等ナルニ我日本國人ハ尙ホ封建ノ殘夢ニ醉リテ因循其生土ニ棲居シ以テ安全無事ノ思ヒナク我輩ノ甚ダ遺憾ニ堪エザル所ナリ  
日本國內各地ノ小天地ニ固着セテ都鄙外ニ出遊スルヲ厭ヒ以テ一生ヲ終ル者酒々皆々然リトハ前節已ニ述ブル所ノ如ク今此意ヲ擴メテ廣ク我日本國人ガ外國ニ渡航スルノ有様如何ヲ考フルニ又我輩ニ於テ甚ダ遺憾ニ堪ヘザラシムルモノアリ蓋シ今日ハ是レ外交ノ世界ニシテ我日本國モノトシテ外國ト交結シタル上ハ政府官吏農工商學術全盤其面目一新シテ又昔日ノ如ク其舊態ヲ守ラズレバ政府官外交官深出スルニ對シテ其舊態ヲ守ル

各國ニ出遊シテ或ハ貿易市場ノ景況ヲ觀察シ或ハ日新文明ノ學術ヲ研究セザルベカラズ尙モ今日ニ方テ大事偉業ヲナサンモノハ區々タル日本國內ニノミ營居セズ進メテ北洋南洋其志スル所ニ航シ東邊西陲其欲スル所ニ赴テ其目的ヲ達セザルベカラザルニ我日本國人ハ尙ホ鎖港孤立ノ舊風ニ慣レテ盛ニ外國ニ渡航スルノ勇ナク徒ラニ故國ニ戀々トシテ遠ク海外ニ遊ブノ志望ニ乏キ我輩ノ甚ダ殘念ニ思フ所ナリ今統計年鑑ニ依テ明治十三年度我國人ガ海外ニ旅行シタル事由ヲ記載シタル一表ヲ見ルニ(公用)三百七人(留學)四十二人(商用)四百九十八人(要員)三百七十三人(職工及奴婢)二百六十六人(漁業)二十四人ノレナリ今此表ヲ就テ見レバ商用ノ爲メニ外行シタル者最モ其多キヲ占ムルニ雖ヒ公用ヲ帶テ渡航シタル者ハ實ニ三百七十八人多キアリテ日本國中ノ商人數百萬ノ中ヨリ僅カニ四百九十八人ヲ出ダシタルニ比スレバ其割合甚ダ多シト云フベシ去レバ我國人ガ外國ニ渡航スルハ概テ公用ノ爲メニシテ其私志ヲ抱テ斷然海外ニ乘リ出ス者尙ホ甚ダ寡ナリト云ハザルヲ得ズ去迎ハ四通五達ノ世界ニ在リテ已ニ廣ク交チ万国ニ通シタル日本國人ニハ甚ダ不似合ナル次第ニアラズヤ我日本コト有爲ノ志士ニ乏シカラザルナリ然ルニ此志士ニシテ其志ニ似合ハシキ所業ヲ爲ス者ノ少ナキハ何ゾヤ唯舊來ノ營居主義ニ慣レテ未ダ大ニ其志ヲ立ツルノ法ヲ求メザルノミ

雜報

○參内謁見 高橋領事內藤書記官の岡君おは近々米國へ渡航するお付き御暇乞として昨日午前十時亦坂飯屋居へ參内謁見を仰付されり  
○遺志繼承 贈太政大臣岩倉公おは存世中華銀行、華族會館及び日本鐵道會社等の事おは殊ニ盡力あり又同族中の諸務にも深く懸念ありて公が爲りお願ふる實際れ効顯著しく其庇蔭を蒙りたる同族中はいふお及びお諸會館諸會社等もて公が遺志の大小を論せお承く繼續致し置り度しとの議にて目下頻りお申合せ中なりと聞く  
○巡察使 田中參事院副議長、奥羽并北海道の巡察を終り去月廿九日歸京しり  
○小澤陸軍少將 同君おは賜暇中上州伊香保の温泉へ入浴する爲め本日出發したり  
○岩村三重縣令 同縣令おは去月廿七日上京し京橋區築地一丁目江間野方へ寄宿の旨届出てり  
○櫻井勉君 櫻井内務大書記官の野蒜港出張先より岩手有禰、函館、横濱、札幌の五縣へ出張し併せて北邊道沿道と巡視し去月廿九日歸京したり  
○櫻井大輔 土方内務大輔おは去月廿九日廣島縣へ着し本道及廣島山へ向け出張する旨、野村農務大臣おは去月廿七

口函館へ着し電報取りたる  
○外國派遣 事務書記官事高橋新吉君地へ赴くの等  
○シヨウア侯 爾邊迄出張を  
○公使送別會 氏の赴任を送ラフお集會し會の人々より  
○津田純一君 任したる津田  
○會計検査官 本縣へ出張し日審査を了り  
○轉任 越町長心得お命せらるる  
○免職並昇等 判任官數十名おて三十名許  
○巡視 農商務  
○高等法院 事實に參考り事實に充分呼び出し充分同を退け各別佐々木、鎌田よと述べられ  
○第三回内閣 十八年に於て年々延期ありて最早第二三の如く不活潑少なるべし功少なるべし爲らるる  
○分會 分會